

2025 慶應義塾大学 (2/14 実施 商学部) 論文テスト 概評

出題分析			
試験時間	70 分	配点	100 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問数は例年通り 2 題，大問Ⅰが主に国語的出題，大問Ⅱが主に数学的出題である点も近年の傾向通り。昨年度からの変更点として，総設問数の増加，本文中の空欄への語句選択補充問題がどちらの大問にもあったこと，提示された事柄を表現する数式を考える設問の復活などが挙げられるが，総体として解答するのは易しく，大問ⅠとⅡを通じて，慶大受験生であれば満点を狙うべき分量・難易度であった。大問ⅠとⅡの本文として扱われている文章・題材も，「商学部」志望者であれば比較的素直に読み進められるであろうものになっており，近年の確率論や情報科学など，やや「ニッチ」なテーマと比べると，どちらも一般性があったと言えた。全ての記述式問題に丁寧に取り組めたかどうか，一部の「ひっかけ」問題に無事対処できたかどうか，合否を分けるポイントになったはずである。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	分配をめぐる議論 (本文は，亀田達也『モラルの起源－実験社会科学からの問い』岩波新書，2017年，を改変して作成。)	「分配」を大きなテーマに，功利主義哲学や行動経済学などにおける議論が，具体的な場面や実験の提示とともに紹介されている。問1と問2の語句補充問題は，特に問1では選択肢数が例年より減少していることもあり，いずれも難しくない(ただし問1の一部はやや決め手に欠ける)。問3は3箇所数字を入れていく方式だが計算は不要で，難しくない。本文中の「以上」など細かな表現に留意しつつ，ゲームの状況を具体的にイメージしながら考えていく必要があった。問4は(あ)で迷う余地があり，「血縁や特定の相手」ではない相手，すなわち「不特定多数の相手」として，「未知」や「多く」などが考えられる。問5は本文中の「功利主義の原則」や「トリアージの考え方」と対応させられているかがポイント。問6は本文中から関連の強い語句をピックアップしてまとめていく。問5でも問6でも，短い制限字数内で意味の通る文を作る力も求められていた。	やや易

設問別講評			
II	<p>消費者物価指数と為替相場</p> <p>(本文は、総務省統計局「消費者物価指数のしくみと見方－2020年基準消費者物価指数－」および日本銀行「教えて！ にちぎん」を改変して作成。)</p>	<p>商学部らしく、経済にとって重要な2種の基礎的概念が題材。政府資料が出典なのは珍しく、ここ数年の物価高や為替レートの変動も意識されていたと考えられる。計算問題では、むしろ各所の叙述内容を丹念に読み込んだ上で、「ひっかけ」に乗せられず論理的に考察していく態度が重要であった。見かけ上の易しさにつられて、それなりの数の受験生が何かしら「ひっかけ」に乗せられてしまったことだろう。問1は「ウエイト」などで迷いそうになるが難しくなく、「円高」「円安」などもごく平易。問2はケアレスミスに気を付けながら本文の流れに従って計算し、特に(イ)に注意。問3は文系の受験生などは選択肢の数式に少しひるむかもしれないが、本文中の記述、設問文中の丁寧な説明、問4以降の設問で行っていく計算方法などを勘案できれば、「買物かごの内容を基準時に固定」することの意味が自ずと読み取れる。1の数式は「ひっかけ」。問4～6は、問3も手がかりとして問4を解いた上で、同じ枠組みに基づきつつも、状況を変えて段階的に解き進めていく方式。「購入数量」をあくまで「基準時」に固定しなければ解けない。問7はここまでの計算もヒントに自分で正解の方向性を考え、制限字数内に簡潔にまとめる。</p>	標準
合格のための学習法			
<p>近年、大問Iで「国語的」な、大問IIで「数学的」な内容が扱われるパターンが概ね定着している。ただし「論文テスト」の傾向は前年度から突然大幅に変わることも多いので、前もって模試などで対策を練っておく必要がある。代ゼミ作成の「慶大入試プレ」では引用書籍の「的中」例も多いので活用は必須(模試と年度は違うが梶井厚志『戦略的思考の技術』や、引用箇所は異なるが同じ年度内の模試と本試験で使われた竹内啓『偶然とは何か』など)。精読・多読の力を伸ばしつつ、同時に「確率・統計」「集合論」など数学の力も伸ばす勉強をしていくこと。また日頃の幅広い読書習慣が結果に直結するので、積極的に経済学・政治哲学・科学技術論などの話題に親しむようにし、さらに情報科学・コンピュータ科学の基礎的な考え方にも触れておくこと。「行動経済学」の入門書を読んでおくことを強く勧める。</p>			